



堺フェニックスロータリークラブ

D2640 Sakai Phoenix Rotary Club

題字：周之江

四つのテスト

～言動はこれに照らしてから～

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

地区ガバナー

三軒 久義

会長

米田 眞理子

幹事

大前 純男

会報委員長

小野 晃範

クラブ情報

〒590-0073
大阪府堺市堺区南向陽町2-2-25
ホテル第一堺TEL : 072-227-4990
FAX : 072-227-4991http://www.sakaiphoenix.com
rotary@sakaiphoenix.com例会日：毎週木曜日 18:30～
例会場：ホテル第一堺URL: <http://www.sakaiphoenix.com>E-mail: rotary@sakaiphoenix.com

第 440 回例会

通巻 440 号

平成 18 年 7 月 27 日

2006～07 年度 No. 4

本日の例会(第4回例会)7月27日(木)
開会点鐘・LEAD THE WAY(率先しよう)唱和
ソング「堺フェニックスRCの歌」
会長の時間・お客様紹介
出席報告 幹事報告 委員会報告
卓話「認知症高齢者への理解」

今野 華会員

(特定非特定営利活動法人・NPO 堺市グループホームシステム研究機構・理事長)
S A A 報告 閉会点鐘

例会前・8月度定例理事会

次週の予告(第5回例会)8月3日(木)
ソング「君が代」「それでこそロータリー」
各種お祝い
卓話「会員増強・拡大月間に因んで」
坂口義郎委員長

次々週の予告(第6回例会)8月10日(木)
ソング「堺フェニックスRCの歌」
卓話「未定」堀内利文会員



三村直前会長の祝辞・今野副会長と受付周防会員



増強委員長会議・司会米田地区委員と三軒ガバナー挨拶



2006～07年度国際ロータリーテーマ

率先しよう

2006～07年度国際ロータリー会長
ウィリアム・ビル・ボイド

第 440 回例会記録

[点 鐘]

[唱 和] Lead the way 率先しよう

[ソング] 「奉仕の理想」「夏の思い出」

【会長の時間】 米田真理子



(本日のお客様紹介)

- 堺北 R C 北田和八 様
- 入会候補者 大下和幸 様

先週の 15 日土曜日に和歌山で開催されたクラブ会長会議に出席してまいりました。

当クラブは既に点鐘時 R I のテーマ 率先しようの唱和・会員増強・出席率向上・奉仕事業に取り組んでおります。嬉しい報告をさせていただくことが出来ました。

当日は G S E のメンバーの報告、さらに今回の受け入れ先の第 6440 地区 (シカゴ) のガバナー 2005 から 2006 年度 江並正氏の講演がありました。

なんとシカゴ地区のガバナーが日本人なのです。立教大学卒業後ホンダ技研の副社長を務めホンダの自動車事業に大きな貢献をなさった方で、経歴は言い尽くせないほどの方です。また資料がありますので必要な方はお申し出下さい。

その方のお話でロータリアンの素晴らしさ、会

長経験者は奉仕活動の頂点であり選ばれたものであるという、スタートしたばかりの会長を大いに勇気付け鼓舞する内容でした。

其の後、会員減少の危機について三軒ガバナーが話され、ピーク時の 3850 名から 2000 年には 3497 名、2003 年 2927 名、2005 年 2655 名、2006 年 2586 名とピーク時から先月末で 1500 名もの減少です。

会員減少については今週末 22 日にクラブ会員増強地区委員会がありますので、その時に詳細を検討ということになりましたが、会員減少即悪いとは言えません。しかしながら数は力なりということ、病死病気等会員数自然現象があることを考えると増強は必要不可欠と考えます。

では自然現象以外に会員が減少する原因は何か？

まずクラブが適切に機能しているかどうか？現会員を維持し新会員を引き付ける魅力がクラブにあるかどうか？会長のリーダーシップが弱体化していないか？高額な会費に見合う価値が会員として享受されているかどうか？見合う価値を提供できているかどうか？奉仕の機会が十分に与えられているかどうか？実りの多いプロジェクトを企画しているかどうか？などなどクラブを運営する会長に起因することは多々あると思います。

勿論時代の変化により価値観の多様化、少子高齢化、地域格差・長引いた不況・クラブ運営のマンネリ化による出席率の低下などが原因としてあろうかと思えます。

今年度こそ 10 周年を機会にロータリーの原点と基本理念を享受し、奉仕の理想を実行し、人を助ける心、奉仕したい精神を鼓舞し、魅力あるロータリークラブを会員皆様と作り上げていきたいと再考させられる会長会議でした。

創立 10 周年を祝おう

周之江 書

お食事とコミュニケーションの時間

本日のメニュー

ビーフカレー



[出席報告]

S A A

7月20日

会員総数	29名
(内出席率計算会員)	15名
本日の出席	18名
本日の出席率	68.19%
修正出席率前々々回	89.47%

<メイクアップ>

米田会員	6月30日	堺北RC
吉岡会員	7月2日	第1回
青少年交換委員会		

【幹事報告】

幹事 大前純男

配布物 理事メンバーに8月度定例理事会案内。

2005-06年度・地区大会記録誌『超私の奉仕』は事務所に一冊保存しています。

会報第439号(本年度no.3)配布、送信しました。送信が遅れたのは事務所での連絡

ミスです。

連絡 堺14RC連絡会の8月度(8月10日)議案として二点提出しています。

1. 「第8組IM実施の概要」ホストクラブ堺フェニックスRC会長 米田真理子
2. 9月度連絡会で「要項細案の説明・提案」の為、IM実行委員長岡本勝土の出席許可をお願いします。

尚、これらの内容は当然の事ながら、8月度定例理事会・8月3日例会で説明して承認を受けた内容範囲に限ります。



堺清陵RC・WCSの呼びかけに応じたインドネシア災害見舞金に対して感謝状を受取りました。

例会変更

堺南RC 7月24日(月)
7月22日(土)18:00~
第1回クラブアッセンブリー

堺プロバスクラブ創立10周年 記念式典お祝いの挨拶

平成18年7月22日

直前会長 三村文男

まずもって、堺プロバスクラブ創立10周年おめでとうございます。

堺フェニックスも今年度創立10周年です、本来今年度会長米田真理子が是非お祝いのことばと言っておりましたが、地区委員会の総合司会で出席

できません。そこで紹介ありましたパスト会長の三村がお祝いのことばをのべさせていただきます。

まず、私は昨年の第9回の定時総会にお招きいただき、堺プロバスクラブの素晴らしことを感じておりました。

それは、特に三つあります

その一つは、大田直前会長が創立のご苦勞を話されたが、堺プロバスクラブが創立されたことにより、基幹となり、全国にプロバスクラブが、つぎからつぎへと創立されていったこと。

二つ目は、クラブ会員一人ひとりの第一線での働きのときの活躍がすばらしい経歴の方々で構成されていること。

三つ目は、先ほどの木久会長の挨拶の中で話しておられる、高齢者社会の拡大に伴う対応です。

「心の豊かさ、思いやり、やさしさ」これを踏襲されていることが肌で感じられました。昨年、私は勉強させていただきました、私の年度で例会に実行にうつさせていただきますました。

そこで、これらは少し余裕あり、少し奉仕の考えがある方の余生をエンジョイできる、受け皿がますます必要となります。これからはクラブの存在感が益々増えてきます、これがプロバスクラブであるとおもいます。

そこで、RCと堺プロバスクラブとの関係を益々深めていく必要があると思っております。

いろいろと言いたいことが「お話が」ありますが、堺フェニックスは十周年事業として環濠クルーズ Sakai の支援を行っております、今日ご来賓いただいております木原市長、北側大臣様には大変お力いただき、着々と準備ができております、この場をかりてお礼申しあげます、有り難うございました。

最後に 10 周年のお祝いと皆様方のご健勝を祈念し、お祝いの言葉といたします。

本日はおめでとうございました。

卓 話

「旅行の裏表」

ウイングツーリスト株式会社・代表取締役
尾羽根伸幸会員



皆さん、こんにちは。皆様方の仲間入りさせていただき、今日で丁度 3 ヶ月になりました。まだまだ解らない事ばかりで、足でまといですが、今後とも宜しくお願いいたします。

また、今日は諸先輩方のまえて卓話ということで、大変恐縮しております。

私が、皆様にお話できることは、私の専門である旅行業についてしかありませんので、そのあたりを、今日は私が経験したことや、旅行業界の不思議なところ、またお得なパッケツアーの見分け方等をお話させていただきたいと思っております。

私が、東急観光という会社に入社し、5年前に独立して、現在にいたっております。

東急観光時代には、いろんなポストを経験してまいりましたが、その中で現在も役にたっているのが、海外営業部のポストにいたときです。そのときの経験した事や皆さんが不思議に思われているだろう事についてお話させていただきます。

30分の時間ですので、テーマを二つにしぼっ

てお話をさせていただきます。まず1つは、今年も話題になり、倒産した旅行社がありました。ワールドカップサッカーの入場券についてであります。丁度8年前、私が、東急観光の海外営業部にいたとき、日本がはじめて、フランス大会に出場するという事で、皆さんもよく覚えてられるでしょうが、入場券問題が発生し社会問題に発展し、今でも裁判をしている旅行社があると聞いております。

そのとき、私も海外営業部の企画仕入課に在籍しワールドカップのツアーの募集を企画しました。そのとき旅行代金でネックになったのは、入場券の代金の高騰ぶりです。

F I F Aの指定した公式代理店からしか購入できない仕組みになっておりましたので、当時は、日本の各旅行社は、全てアメリカの代理店と交渉しており、当時で通常価格の3~4倍で代理店から販売されておりましたが、ツアー代金からみれば高くなるので、各社が頭をかかえていた時、ヨーロッパのランドオペレーターのミキツーリスト(株)という会社が、フランスの代理店と話を付けて、安く手に入れるという話があり、全ての会社が乗ったというのが、真相です。

その結果、その旅行社が直前にバンザイしまして、あのような社会問題になりました。J A T Aが収集しようとしたのですが、J T Bだけが拒否して、フランスでは、J T Bが先乗りして、市民の持っている入場券を買いあさった結果、最終的には1枚20万円しました。一社が先走りした結果このように高くなりました。旅行業者間で話し合いできない以上、この問題は、毎回出てくる問題だと思われます。この問題に限らず、旅行業界がお互い足の引っ張り合いをしている以上各社とも先がないように思われます。二つ目のテーマもまさに業者間で話し合わなければならない問題ですが、放置されているのが現状です。

それは、やはり、皆さんがいつも思われるように、新聞にでているツアーはなぜ安いのか？という問題です。

新聞では、我々旅行会社でも考えられない価格のツアーができるときもあります。

それは、1つは、現地ランド費用をやすくおさえるために、ショッピングを無条件に組み込んだツアーで旅行費用を安く抑える手法もありますが、もっとも大きいのは、航空運賃です。大手旅行会社と各航空会社は毎年、半期ごとに送客人員について契約をします。4月~9月を上半期とし、10月~3月を下半期として各半期毎に契約します。

各社は契約人員がヒットすれば、根本から一人いくらくらのKBが発生しますので、そのKBを獲得して収入に変えたい為に、契約人員が不足すれば、破格の料金を設定しメディアに掲載し、契約人員を達成させていくので、破格の安いツアーが出る事になります。

但し、ヒットすればいいが、しない場合は、大赤字をくう状態になるんですが、その場合でも航空会社によっては、ゆるしてくれると言うか、赤字を補填してくれときがあるから、そのようなツアーを企画したほうが、得な場合があるので、この業界の節操のなさが如実に表れています。

最低販売価格をチェックする機関もあるんですが、いまはあってないような状態ですから、皆様がお得なツアーに参加される目安は、9月・3月の単月の急に企画したツアーを利用する方法。それはツアーのパンフレットを見ればどなたでもわかります。特に1枚のパンフレットのほうがお安いと思います。

あとは、旅行目的・ホテル・企画内容等をチェックされてツアーを選ばれたいいかと思えます。以上、貴重なお時間を頂戴いたしまして、有難うございました。



SAA 報告 にこにこ

本日、尾羽根様の卓話楽しみです。宅さんの再入会、何卒よろしくお願い申し上げます。大下さんの入会もお待ちしております。
(米田会長)

10月1日の第8回「内川・土居川まつり」の実行委員会も細部検討をはじめています。
(大前幹事)

今日の卓話、尾羽根さんよろしく願います。話を聞きたいのですが、地元の地車の件で会議があります。途中退席ごめんなさい。(三村会員)

遅れましてすみません。尾羽根さん、本日の卓話よろしく願います。

(犬伏会員)

各地の水害の被害を知らされる度に、お気の毒で胸が痛みます。

(周防会員)

今日、初めての卓話です。非常に緊張します。皆さんよろしく願います。(尾羽根会員)

本日	6件	合計金額	¥29,000.-
		累計金額	¥233,000.-



7月の花 ハイビスカス

投稿

「私の青春時代の一コマ！」 田幡茂美 会員

去る五月二十七日早朝ジャワ島中部で大地震が発生し死者五千人・負傷者一万五千人・倒壊家屋約一万軒と報じられ驚き聞かされました。

私は終戦前、学徒出陣により学生中に兵役に服し下級将校としてスマトラ島に着任し終戦を迎えたのであります。終戦後抑留生活に入り7ヶ月余りスマトラの東南にあり、気候風土もよく似ていますし、住民のインドネシア人も日本人と同じ黄色人種で体格もよく似ております。島民は実に人懐っこい性格で親日的でした。五ヶ月程の間にすっかりマレー語にも馴れ日常会話も不自由しなくなりました。その為、あの日本万国博覧会の際にもインドネシア館に入り会話をかわした私を見た友人が不思議がり「なんでや」と言われましたが軍隊時代での経験があったからであります。

今から六十年前の経験で未だに片言ながら喋れるのであります。極めて陽気な性格で夜になると月を見ながら歌を唄い踊り夜の更けるのも忘れる程でした。

私も二十二歳の青年でしたので若い女性にも人気があり、日本に帰らずにこの土地で暮らしてほしいとまで言われました。日本でかつてないほどのモテ方でした。軍の命により内地に帰還することになったその夜は家族ぐるみで送別会をしてくれました。特に輸送船で岸壁を離れていくときなど海岸を走り手を振りながら別れを惜しんでくれました。未だに忘れられません。たどたどしい声で「タバタショウヘイ、また来てね」と実に感動的でした。戦争のお蔭で忘れることのできない青春の思い出です。